

2万2000人のネットワークで
さらなる活動を！

Vサイン No.7

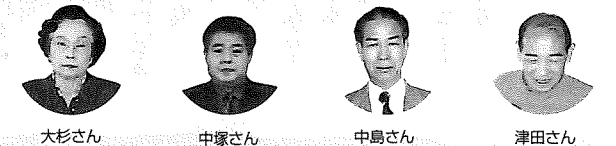
各種委員会への参加と提言など様々な活動に取り組んでいます。

今回、市町村ボランティア連絡会が発行していた機関紙「Vサイン」を本誌「ボランティアOSAKA」に統合し、ともに企画・編集に取り組んでいくことになりました。

そこで、第1回を記念して、役員のみなさんのメッセージを紹介し、ボランティアOSAKAが身近な情報誌となることを願って今後の紙面づくりへのご協力とご意見を併せてお願いします。



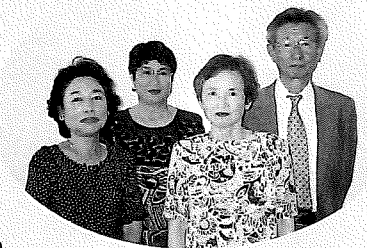
後列左より、大藪さん、濱崎さん（植野さん代理）、畠山さん。
前列左より、竹村さん、山田さん、矢形さん、近藤さん、北垣さん。



大杉さん 中塚さん 中島さん 津田さん



後列左より
原 三枝子 河南 (八尾市ボランティア連絡会)
大藪 幸雄 北摂 (茨木市ボランティア連絡会)
栗原清美子 河北 (交野市ボランティア連絡会) 部長
藤原 法子 泉州 (岬町ボランティア運営委員会)



後列左より

網谷 朝代	河北	(門真市ボランティア連絡会)
宮田 信直	河南	(河内長野市ボランティア連絡会) 部長
渡瀬 芳子	北摂	(池田市ボランティア連絡会)
近藤 裕子	泉州	(泉大津市ボランティア連絡会)

大阪府市町村ボランティア連絡会（矢形律子会長）は、大阪府内の市町村ボランティア連絡会の組織化を進め、現在32市町村のボランティア連絡会が加入（約600グループ、2万2000人を組織化）して活動しています。

この連絡会は、平成8年に開催された第5回全国ボランティアフェスティバルを契機に、大阪のボランティア団体を包括する代表的組織として結成されました。

以来、市町村の横の連絡、交流を図りながら、おおさかボランティアフェスティバルをはじめ、重油回収ボランティア活動やふれあいピック、福祉マップづくり、研修や調査、

役員

会長	矢形 律子	北摂	(高槻市ボランティア連絡会)
副会長	植野 昭雄	北摂	(摂津市ボランティア連絡協議会)
副会長	北垣 登美	河北	(守口市ボランティア連絡会)
副会長	中島 恒夫	河南	(東大阪市ボランティア連絡会)
副会長	大竹 貞子	泉州	(高石市ボランティア連絡会)
幹事	村松 和枝	河北	(四條畷市ボランティア連絡会)
幹事	山田 雪枝	河北	(大東市ボランティア団体連絡会)
幹事	津田 尚文	河南	(太子町ボランティアセンター運営委員会)
幹事	近藤 裕子	泉州	(泉大津市ボランティア連絡会)
監事	大藪 幸雄	北摂	(茨木市ボランティア連絡会)
監事	畠山 康子	河南	(柏原市ボランティア連絡会)
会計	中塚 利彦	泉州	(和泉市アイ・あいロビー運営委員会)

ハリアフリー部会

玄關部會

勤労者のボランティア活動 入門講座

現役サフリーマン、労組の皆さんの参加をお待ちします。(無料・定員30人)

日時 9/29(水)、10/20(水)、11/17(水)、
12/15(水)各18時30分から20時30分

場所 市総合市民交流センター(JR高槻南駅前)

内容 大阪ボランティア協会事務局次長・名賀亨さ
んの講演や事例報告

申込み 高槻市ボランティアセンター

中級朗読ボランティア養成講座

日時	10/18 10/25 11/1 11/8の各月曜の午後1時から3時まで
場所	柏原市ボランティアセンター作業室 (健康福祉センター内)
対象	初級程度の講座を修了した方 約20名
講師	日本話しことは協会から派遣いただきます
参加費	1000円
申込みと問い合わせ	

柏原市社会福祉協議会
 柏原市ボランティアセンター
 〒582-0018 柏原市大県4-15-35
 TEL 0729(72) 6786
 FAX 0729(70) 2173

かがやきフェスティバル

すべての人々が、共に生きる社会の実現を目指して、開催されます。

日時 10/24(日) 13時から16時まで

場所 大阪城公園 太陽の広場

内容 影山ヒロノブのコンサート、ちんどんバラエティショー、かがやきアート、移動動物園、ラジコンカーレース、ミニ4駆レースなど

第18回「東大阪ふれあい広場」

日時 10/17(日) 午前10時から午後3時まで
場所 東大阪市立総合福祉センター
内容 バザー、模擬店、福祉機器展、演芸コーナー、
インターネットコーナーなど
問い合わせ 東大阪市福祉センター



問合わせ

関西電力 大阪北支店支店長室
TEL 06(6377)7308

関西電力 大阪南支店 支店長室
TEL 06(6676)2208

●協力してくださるボランティアさんの募集もしています

●「ボランティア 市民活動フェスティバルinおさか」(10時半～16時)も同時開催

たかつきふれあいひろば

子どもからお年寄りまでが楽しく集い、ふれあえる福祉フェスタです。

日時	11/6(土) 13時から15時まで
衣装品のバザー	
11/7(日) 10時から15時まで	
フェスタ	
場所	高槻駅前郵便局および松坂屋横歩道
内容	福祉バザー、作業所・授産所の作品販売、模擬店、各種イベントなど
主催	高槻市社会福祉協議会など

交流会「みんなと遊ぼう、ふれあいの輪！」

屋台、ゲーム、展示、演奏会などを通して障害者とふれ合いませんか。高校生以上の当日ボランティアも募集中です。

日時 11/7（日）10時から15時まで

場所 松原市総合福祉会館内（松原市新堂1-589-6）

主催 まつばらボランティア連絡会

問い合わせ

● ボランティアさん募集 ●

老人保健施設で高齢者の介助

着替えや食事介助、送迎補助、話し相手など週一回、3時間程度からでもお願いします。（日曜除く）

対象 学生・一般の男女
費用 交通費の補助あり
場所 高槻市大塚町5-201
京阪バス停「大塚」下車
(医) 東和会老人保健施設「サンガリア館
問合わせ ボランティア「東和会」事務局
TEL 0726 (73) 6500
FAX 0726 (73) 6522

北 摂

**池田市社会福祉協議会 設立50周年
池田市ボランティアセンター 設立10周年
記念式典・イベント開催!**



11月20日の抜けるような青空のもと、池田市社会福祉協議会設立50周年&ボランティアセンター設立10周年の記念式典が池田市民文化会館で開催され、1400人の人出でにぎわいました。

アットホームな市民の式典

池田市社会福祉協議会は1949(昭和24)年に大阪府内で最初に設立された社協で、今年設立50周年を迎えます。またボランティアセンターも今年で設立10周年。共に記念すべき節目の年とあって、関係者や市民の皆さんの気持ちのこもった、とてもすばらしい式典となりました。

会場受付では、プログラムと一緒に「いけだの水」を来場者全員にプレゼント。「喉を潤せるうえに池田らしさもある、とてもいいアイディア」と、訪れた市民にも大好評。2階へと続くスロープを利用したギャラリーの活動紹介パネル展示には、校区福祉委員会や各ボランティアグループの力作が並びます。子どもたちには、会場内の各所に設けられたスタンプコーナーを回ってスタンプを集めるスタンプラリーが人気。その他にもボランティア団体の

や企業などの展示・販売ブース、介護保険相談コーナーや車いす体験コーナーなどがあり、熱心に話し込む来場者の姿も見受けられました。

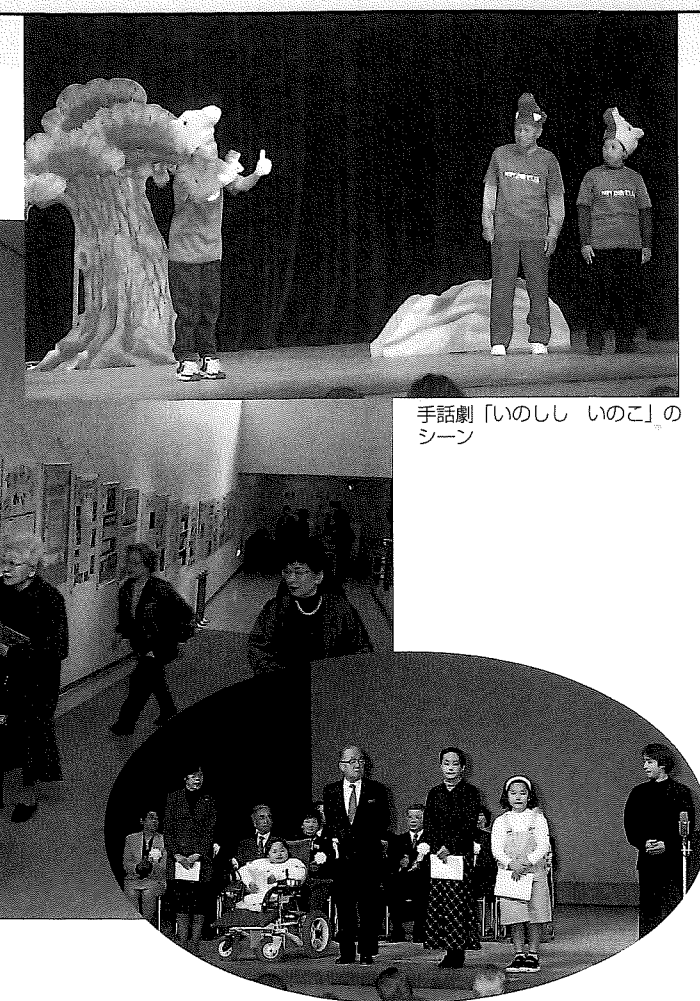
「福祉のまち池田」を目指して

午後1時からの記念式典は、神田小学校の児童たちによる勇ましい和太鼓演奏で開幕。続いて池田市社協の畑田会長の挨拶をはじめ、功労者の表彰やボランティア団体への感謝状贈呈などが行われ、市民が各自のボランティア体験などを語りました。式典での手話通訳と要約筆記もボランティア団体の協力によるものです。

その後、マリンバ演奏やボランティア団体によるコーラス、中学校管楽器部の演奏、ボランティア連絡会の手話劇が披露されました。手話劇「いのししのこ」は、台本から衣装や小道具、大道具まですべてボラ連メンバー

による手作りの劇。主人公の「いのこ」がお婿さん捜しの旅を通じて自分の個性と魅力を見出すという心温まるストーリーで、ラストの「みんな誰だっけいいものがある。みんな違って、みんないい」という台詞が、関係者全員の心からのメッセージ。最後は出演者と観客の大合唱でフィナーレを迎えました。

「市民の皆さんと一緒に、池田ならではのあたたかみのある式典を目指しました」という畑田会長の言葉どおり、オリジナリティーある「市民による市民のための」催しとなった今回の記念式典。池田のこれからを予感させるかのような、アットホームなにぎやかさにつまれた1日でした。



手話劇「いのししのこ」のシーン



「福祉は人なり」をモットーに



池田市社会福祉協議会会長
はただ 畑田美智子

池田市社会福祉協議会の誕生は昭和24年。府内で最初、全国でも最も早く発足した社協のひとつです。人口約10万人の池田には、昔から受け継がれてきた助け合いの精神が今も生き続けています。近所のふれあいも盛んで、「おはようございます、今日はどちらへ?」という挨拶の音が、街のあちこちから聞こえてくる……池田市民のそんなあたたかい気質が、今の池田を育んできたのだと思います。大切にしたいのは「人と心」。今後は、池田市および関係機関・団体との連携をはかりつつ、「福祉のまち池田」の実現に向けて、地域の皆さんとのネットワークをますます拡大し、活発化させていきたいと思っています。

より活発な市民ネットワーク構築を目指して



池田市ボランティア連絡会会長
みっほ 谷本充甫

池田のボランティア活動の特色として、各ボランティア団体どうしの横のつながりが親密なことがあげられます。個々の活動のみならず、互いのサークルが専門性をいかして連携する動きが活発で、いくつかのグループが協力してひとつのイベントを行うというような例も多々あります。

行政や社協がタテの糸ならばボラ連の役割はヨコの糸。人と人のつながりこそが私たちの財産です。ボラ連としては、これからの「わ(輪・和・話)」を大切に、ボランティアのまち池田を目指して、地域に根差したボランティア活動を応援していきたいと考えています。

河南

第2回ボラ連バザー、大盛況！

10月31日の日曜日、昨年と同様、河内長野市商工会青年部主催の「ふれあい楽市きらく市」にテントをお借りして、バザーを実施しました。

お天気にも恵まれ、開店を待ちきれないお客様のため定刻より早めにスタート。お昼ごろにはほぼ完売という好成績で、収益は12万1730円。募金ビンの952円と合わせて、計12万2682円をボラ連会計に入金しました。

今年の会場は市役所の周辺で、主会場は庁舎裏の駐車場。私たちのリサイクル広場はロビーに面した市民広場の方で、道路からのメインストリートですから、開店前から黒山の人だかりができて売り子さんはてんてこまいでした。

収益金もさることながら、ボラ連各グループの方々との協働作業(献品の確認・値付け・荷造り・運搬、会場での展示・セールス等々)の中で、はじめてお会いした人たちとも仲良くなれ、横のつながりがより密に

なったことは大きな成果だったのではないのでしょうか。

河内長野市ボランティア連絡会



河北

「高齢者のつどい」に6グループが参加

11月10日、門真市南部市民センターにおいて門真市社協老人福祉部会主催の「高齢者のつどい」が開催されました。市内の高齢者230名を迎え、第1部では介護保険制度について市の担当職員が講演。続く第2部ではアトラクションが披露されました。最後は「かどま音頭」のにぎやかな雰囲気の中で幕を閉じました。

このイベントに、門真市ボランティアグループ連絡会から6つのグループがそれぞれの特技を生かして参加。

第2部のアトラクションには、門真市老人クラブ連合会の銭太鼓や新舞踊をはじめ、「アラジンマジッククラブ」と「門真マジック同好会」から3名が出演し、好評を博しました。音楽に合わせて筒から万国旗が出てくる手品に、場内の観客から盛大な歓声が。また、日頃あまり見る機会のない「南京玉すだれ」では、次から次に変化していく様子にみんな目を奪われ、最後に枝垂れ柳が出来上がると割れんばかりの拍手が会場を包みます。

また、特設展示場では、手作り介護用品の作成を行っているボランティアグループ「若葉会」が作成品を展示。介護用品の紹介をしたり、相談を受けたりと大にぎわい。車イス用のレイン

門真市ボランティアグループ連絡会

コートや床ずれ防止用のビーズマットなどに足を止めて興味深そうに見入る参加者の姿が多く見受けられました。さらに、当日は高齢者が多数参加するというところで、介助ボランティア「みどり会」「まじか」「つくし会」から15名が協力。参加者のスリッパの履き替えや、ホールまでの誘導、階段昇降の介助などにあたりました。

「高齢者のつどい」もつつがなく終了。参加された高齢者の楽しそうな笑顔を思い出す度に、出演したグループも介助にあたったグループも満足感に包まれ、今後のボランティア活動に決意を新たにす1日となりました。



東大阪市のボランティア人材発掘の試み



今回は、市民にボランティア活動への理解と参加を求める「あいあいサロン」という啓発活動についてご紹介したいと思います。

ボランティアの人材確保はこの地域でも大きな課題。東大阪市ではこの問題について今年の1月から準備を始め、いろいろな角度からの勉強会を開いて検討。その結果、月1回第4土曜日の午後2時から2時間の「あいあいサロン」を開催することになりました。

プログラムは、ボラ連各グループからの活動内容の説明、ゲストスピーカーのお話、健康体操や手芸などの体験プログラムとなっていて、司会進行役もそのつど替わること。ちなみに、9月から11月のサロン活動は次のような内容でした。



●9月
活動紹介——独居老人・障害者に福祉電話と介助活動「はだしの会」
特別講座——里親制度とは
健康体操——毎日できる簡単体操

●10月
ゲストスピーカーのお話
小地域ネットワーク事業とボランティアの関わり
体験プログラム——ペンシルパルン
(風船)で動物づくり

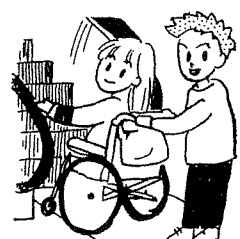
●11月
ゲストスピーカーのお話
ペンペン草「ボランティア活動って楽しい?辛い?」

参加者数は、第1回が92人、第2回以降は50人ほど。案内チラシには「みんな集まって情報交換しましょ!」より豊かな、暮らしやすい社会を作るために「フリーマーケットで楽しく話そう」とありました。

このような取り組み事例については、今後も「Vサイン」誌上などで情報を交換しあい、それぞれの活動の参考にしていくことができればと期待しています。

(広報部会 河南ブロック担当 宮田記)

泉州



ボランティア・ネットワーク「めんたいフランス」

「学生Vが地域交流」

ボランティア・ネットワーク「めんたいフランス」には、三つの理念があります。それは、「ボランティアをする人・したい人の交流の場とボランティア情報交換の場をつくる」「どこでも何でもボランティア」「自分発見」。これらを柱に色んな活動をしています。

現在第14回「障害」をもつ仲間と共に歩む若者の集い」に参加し、11月21日には小中・高・大学生・障害を持つ人と一緒にいなりイベントを盛り上げました。今後は、桃山学院大学内でボランティア情報共有できる形を作ろうと、大学内にあるいくつかの団体(サークル)と話し合いを持っています。

泉州ブロック交流会

高石市ボランティア連絡会

9月30日、高石市総合保健センターで、泉州ブロック交流会を5市1町から30人の参加を得て開催しました。各市の連絡会が活動状況を報告し、質疑応答では、スタッフの不足や財政面で

の悩み等いずとも同じ感がありました。その中で、岸和田の職員の方が連絡会を新設するにあたって具体的な質問をされたのに対し、各市が状況を発表。また大阪府ボランティアセンターの青木所長補佐より適切なアドバイスがあつて、議論が活発化し、連絡会の進め方を見直す良い機会となりました。

その後、本市に新しくできた「老健施設伽羅の郷」と「総合保健センター」をご見学いただき、閉会致しました。皆様から「今までより掘り下げた良い交流会になった」というご感想をいただき、嬉しく思っております。

市民グループ「ボッポ」と学生が共同で音訳ボランティア

桃山学院大学では、視覚障害を持つ学生を対象とした対面朗読制度があります。現在、34人の学生がボランティアに登録。学生とならんで、和泉市の音訳グループ「ボッポ」や社会人の聴講生、非常勤の先生方が協力しながら活動しています。

対象者が授業で使う教科書・プリント類をテープ録音するのが主な活動ですが、中でも「ボッポ」のメンバーは、主に学生が活動しにくいテスト期間などにピンチヒッターとして活躍。

今後、大学に設置されているウインドウズ95の画面を読み上げたり、スクリーンで読みとった墨字を朗読できる音声パソコンや、専用のプリンタ等の設備を十分活用していくと、マニユアの作成が進められています。

北摂

さまざまな活動と問題について考えた、 実り多き交流会

北摂ブロック交流会報告

分散会①

「施設ボランティア活動について」(16名)

〈各市の活動状況報告〉

高槻市 富田町病院で入浴手伝い、シート交換、デイサービス介助、車椅子介助、掃除など約20種類。「地域は我が家、この地で暮らしたい」をスローガンに活動。ボランティアの平均年齢が高くなってきているので、若い男性の参加を期待している。

箕面市 市立病院の手術衣など10人のグループで月1回補修活動。老人給食ボランティアにも参加している。

吹田市 特別養護老人ホームでのシート交換(月2回)、リハビリ、歌体操、デイサービスでの活動。市立病院の案内・受付、車椅子のガイドなど。

茨木市 病院・老人施設・デイサービス・共同施設で、入浴・脱衣・湯茶・喫茶など。教育の一環として参加している中高生ボランティアの態度や挨拶には見習うべきものがある。藍野病院(痴呆・アルコール依存症)と一緒に歌を唄うグループもある(月3日)。

摂津市 2カ所の老人ホームでデイサービス手伝い、喫茶ボランティアなど。季節毎に花見・盆踊りなど実施。夏は

日時 2月19日(土) 午後1時30分～4時
場所 池田市立池田駅前南会館

浴衣姿で活動し、非常に喜ばれた。

池田市 特別養護老人ホームでおやつを作ったり、洗濯物たたみ、夏祭りの協力や喫茶ボランティアなど。個人ボランティアがケアハウスで編み物指導、市立病院でクリスマスコンサート。歌体操グループが、市内4施設を訪問(月1回または2カ月に1回)

◎ボランティア層の高齢化と若い人の参加について

- ・若い人は仕事のため、休日しか参加できない。高齢者とはボランティアに対する価値観が違ったりするため長続きしないことも。
- ・定年後の男性が増えた。
- ・在学中のボランティア経験が層を広げることになる。教育現場への期待がある。
- ・教育改革で総合的学習の時間が始まる。ボランティア活動や地域代表者による学習、労働体験など。将来は若年層の参加が期待できる。

分散会②

ボランティアグループ・連絡会の運営について(21名)

〈各市町村代表による活動報告〉

豊能町 一人暮らし生活者に対して食事会を1年半ほど続けている。運営は手探り状態で、社協の下請け感があり、

の交流、情報交換の場となっている。

〈運営についての問題点〉

1. 財源……社協からの助成によるところが多い。今の一律の助成から、行事に対して、また中身に合わせて申請していく形になるのでは。
2. 役員……任期は2年がほとんど。選挙や持ちまわり、当番制や推薦など。
3. 活動……マンネリ化や活動の重複により動けない状態など。

- ・ボランティアも無責任にならず、信頼感を持ってもらえるよう努力する。
- ◎ボランティアの手伝いの範囲。身体に触れることについて
- ・爪切り、ひげ剃りを頼まれ、どうすればいいか困った。
- ・事前に施設側と確認しておくこと。する人やしない人がいると誤解が生じるので。

◎資金捻出について

- ・施設の前で週1回2～3時間のミニバザーを実施し、地域の方からの寄贈品を販売したが、一部の人から批判があった。

◎喫茶サービスのあり方について

- ・個人の病状によりメニューが多すぎる(喫茶以外にぜんざい・ホットケーキ・たこ焼きなど)。
- ・喫茶会議をもって話し合っている。
- ・糖尿病患者などには、欲しいものを食べてもらえず辛い時がある。
- ・音楽を聴きながら実施。すべてボランティアに任せられている。

自主活動を進めたいと考えている。

高槻市 新しく、子どもと障害者も参加してのクラシックコンサートをした。脳性麻痺児も1ヵ月あまりの練習

小学校7校あり、中学校では特別養護老人ホームへのボランティア、手話と聴覚障害者、点字と視覚障害者、車いすと身体障害者などの学習を授業に組み込んでいる。

◎質問・意見

- ・一番とつきやすいのは手話。しかし使う場がないと忘れてしまうので続けることが大切だと思う。
- ・点字の場合、点字板が必要になるが、学校も教育委員会もせて学校1クラス分は用意してほしい。ただ教えるだけでなく考えてほしい。

・「高槻市の50名のボランティアの活動は？」1年を前期と後期にわけ、各6回を授業の一貫として活動しているが、全くボランティアを受け入れない学校も。また授業時間が短いのが悩み。工作など1回で無理なくきは2回で修了という場合もある。

・吹田は高槻にならい、学校支援人材バンクが設置され、活用している。

- ・授業の時間は45分短いの、学校の休講日に活動するのはどうか。
- ・池田では30分実施。1回きりや30分では少ないという意見が講師からも出た。指定校だけでなく、全ての小中学校で授業に福祉の勉強を取り入れてほしいという意見もある。

・吹田の小学校指定校では、一人暮らしのお年寄りに葉書を送っていた。

- ・車椅子登校の生徒に対して、自然に手が出て全員が関わっている。お互いの助け合いの精神が一番。
- ・「主人公は子ども」ということを頭において活動を進めていきたい。

分散会③

学校教育とボランティアについて(13名)

〈各市町村での活動報告〉

豊能町 生涯教育として4年生の国語の授業に以前から手話、昨年からは点訳が組み込まれている。

高槻市 平成6年より、市内の小中学校に出向きおもちゃ作りなどを指導。5

6年前よりモデルケースで22科目(牛乳パック工作、昔遊び、手品、針金細工、写真・新聞、グランドゴルフ、歌体操、バスケット、理科、ドッジボール、太極拳、卓球、家庭科、絵本を作ろう、演劇、コンピュータ、お茶、書道、学校菜園、ソフトバレー、さおり織り、チャイム演奏)を50名のボランティアで対応、教育委員会から依頼あり。また、来年度4月より「高槻市学校支援人材バンク」を設置実施予定。

箕面市 点字とガイドヘルプを小3と小4に。昨年は中1にも。

吹田市 青少年活動研究会として市内

摂津市 ボランティアの原点に立ち、「できることをする」活動をしている。各グループが当番で役員を担当。自分のグループだけの活動のみならず、他

の行事(成人祭、子どもカーニバル)、地域こども会の行事(キャンプでの料理など)、公民館行事(クラフト指導、クリスマス会、昔遊び)を実施。学校へは百人一首、タコ作り、昔遊びなどに参加、指導。

摂津市 昨年暮れに「摂津すぐれ者」募集。応募者100名のほとんどが市外の人で有料での活動希望が多かった。社協ボラセンとしては、ボランティアも学校教育に組み入れようとしているが、小学校とのアプローチは、やはり手話・朗読や車いす体験くらい。

池田市 池田サラーマンOB会が竹細工や木工工作、学校からの依頼で花壇作りに参加。手話・点訳・ガイドヘルプ指導は以前より小中学校から依頼があり、続けている。影絵グループは保育所・小学校の誕生会やその他の行事に参加。福祉協力指定校の中学2校、

2月28日、「ラポールひらかた」で大阪府市町村ボランティア連絡会主催の河北ブロック交流会が開催されました。

まず枚方市社協より挨拶があり、枚方市においてボランティア団体や個人への市長表彰を始めたこと、より広くボランティア全体を支援していくセンターを現在検討していることが報告されました。つぎに府社協ボランティアセンターの青木所長補佐が、まもなく導入される介護保険制度にどう対応していくかボランティアの担うべき役割のガイドラインをつくる段階にあることを示唆されました。

第一部、「わが街のボランティア事情」枚方編」では最古参の「あゆみ」から新加入の「デイジー枚方」まで13グループが活動状況のみならず呼びかけや悩みもまじえて真摯に報告。それを受けて第二部で各市間の意見交換に移り熱のこもった活発な質疑応答が繰り広げられました。

「増え続けるニーズに対応して1人の活動頻度はどれくらいか」「保育送迎にどこまで対応しているか」



（枚方市ボランティアグループ連絡会）

「各種イベントの費用捻出はどこからか」「手話・デイクアは数団体あるが、どう住み分けているか、常に交流をはかっているのか」など核心にふれた率直な質問が寄せられました。

とりわけ専門技術系の人材確保に関心が集中。点訳・音訳・介護法の指導などは「活動に応じて新人養成が経験者スカウトか、事情に照らして工夫しています」との答えがあり、期せずして直面している課題が浮き彫りになりました。人材不足については各市共通の悩みと伺い知りました。閉会後、福祉資料コーナーや情報製作室のほか、階下のプール・デイスーツなども見学していただきました。

当日は当番市としてありのままの姿をお見せただけですが温かな助言やヒントをいただき嬉しく思いました。

（枚方市ボランティアグループ連絡会）



質疑応答の時間には、不登校児の親の会からの呼び掛けに取り組んでおられる岸和田市の活動について伺いました。また、要請があった時、それを受けるに当たってボランティアの好意だけに頼るのではなく、費用等についてもしっかりと話し合うことの必要性について

ボランテアセンターの運営について

「あひびあ泉南」3階のセンター運営は、連絡協議会と社協とが共同で行っています。月々金曜日の毎日を午前・午後に分け、会員が当番制で担当。センターをたずねて来られる方への対応や、電話番号をしたり事務的な仕事の手伝いをします。

このセンターをもっと活力ある場所にするために、連絡協議会から他のボランティアグループへの呼び掛けが始まりました。近いうちにもっとたくさんさんのボランティアグループが入り来るセンターとなることを期待しています。

河北

河北ブロック交流会開催

率直な意見交換で、有意義な一日に

泉州

泉州ブロック交流会開催

泉南市ボラ連による真心こめた会場づくり



市社協事務局が入っていて、子育てや在宅介護の支援センター、ボランティア活動など地域福祉センターの機能を持っています。

交流会は午前11時に開会。柏原市ボランティア連絡会会長の畠山さんが、明るいお人柄どおりのくだけた雰囲気でお話を進められ、まずは出席者の自己紹介が行われ、続いて柏原市社協の給食サービスと調理ボランティアの活動の紹介がありました。

給食は週3回、特養施設の分も週1回作っていて、パック詰めの見本を見せていただきました。オアシスの広い調理室を使っているのも単価は300円との説明に、参加者から「すごく安い」と感嘆の声も出ました。

その秘密はどうか、地元のスーパや商店の協力とともに、野菜作りをしている「つつこ」というグループが活躍していることにあるようです。

申込みの受付や経理はすべて社協が担当し、献立は栄養士が作成。配食は別の地域ボランティアが担当しており、調理に専念する10数人はグループ100人から交替で出るといいます。

交流会の昼食には、特製のお弁当を頂きました。老人会などから行事の時に注文があれば作っているものだ、との説明がありました。



おいしいお弁当に会話も弾む、楽しいひとときとなりました。

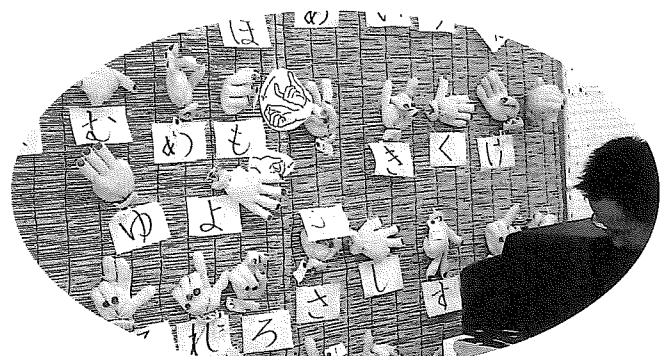
の説明がありましたが、今回のお値段は500円。「ご往々に応じて、いくらのものでも作る」とのこと。お雛様の飾りがついた箸袋は手芸グループの作品で、豪華なお弁当は大変美味しいと好評を博しました。

昼食後はセンター内を自由に見学し、午後からは各連絡会の代表による活動報告がありました。

今回は、ボラ連発足準備中の藤井寺



センター屋上にある「健康遊歩道」。「石の突起の上を歩くので痛いけど、体がほかほかして快適」と毎日のように通う市民もいるとか。



ボラセンの壁には手話の指文字が。てぶくろで立体的に表現されており、わかりやすいと好評。

河南

河南ブロック交流会開催

社協の給食サービスチームの特製お弁当に舌つづみ

3月1日、今年度第2回目の河南ブロック交流会が柏原市健康福祉センター「オアシス」で開かれ、9市町のボランティア連絡会から44名が参加し、盛大かつ和やかに開催されました。

このオアシスは昨年完成したばかり。3階建てで、保健センターと柏原

平成12年度 大阪府市町村ボランティア連絡会総会を開催

新会長に高石市の大杉貞子氏が就任

去る5月26日、大阪社会福祉指導センターにおいて、平成12年度大阪府市町村ボランティア連絡会の総会を開催いたしました。会則の改正、11年度の事業報告・決算報告、そして12年度の事業計画、予算案、および役員の補欠選任などの各議案が熱心に討議され、会場の拍手で了承されました。

2部では大阪工業大学の角田禮三教授による、「21世紀の教育を創造するために」と題した講演があり、参加者は熱心に耳を傾けました。

なお新旧の役員名簿は以下のとおりとなります。大杉新会長のもと、役員一同、結束して各事業を推進して参りますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。



角田 禮三教授

平成12年度 大阪府市町村ボランティア連絡会役員名簿

旧 役 員			新 役 員		
役職名	氏名	連絡会名	役職名	氏名	連絡会名
会長	矢形 律子	高槻市ボランティア連絡会	会長	大杉 貞子	高石市ボランティア連絡会
副会長	濱崎 哲次	摂津市ボランティア連絡協議会	副会長	濱崎 哲次	摂津市ボランティア連絡協議会
//	北垣 登美	守口市ボランティア連絡会	//	北垣 登美	守口市ボランティア連絡会
//	中島 恒夫	東大阪市ボランティア連絡会	//	中島 恒夫	東大阪市ボランティア連絡会
//	大杉 貞子	高石市ボランティア連絡会	//	近藤 裕子	泉大津市ボランティア連絡会
幹事	竹村 和枝	四條畷市ボランティア連絡会	幹事	竹村 和枝	四條畷市ボランティア連絡会
//	山田 雪枝	大東市ボランティア団体連絡会	//	山田 雪枝	大東市ボランティア団体連絡会
//	津田 尚文	太子町ボランティア運営委員会	//	津田 尚文	太子町ボランティア運営委員会
//	近藤 裕子	泉大津市ボランティア連絡会	//	吉田 由巳	高槻市ボランティア連絡会
監事	大藪 幸雄	茨木市ボランティア連絡会	監査役	大藪 幸雄	茨木市ボランティア連絡会
//	畠山 康子	柏原市ボランティア連絡会	//	畠山 康子	柏原市ボランティア連絡会
会計	中塚 利彦	和泉市アイ・あいロビー運営委員会	会計	中居 順三	和泉市アイ・あいロビー運営委員会

平成13年5月31日まで

新会長のあいさつ

このたび矢形会長が辞任されるにあたり、はからずも私が会長をお引き受けすることになりました。

前会長のように立派にお役目を果たせるかを考えますと非常に心もとない感じがいたしますが、皆さんからありがたいご推薦をいただいたのですから、この連絡会により多くの市町村が加盟してくださるとともに、生き生きとした活動ができるように、一生懸命に努力する所存でございます。

不慣れな大役のことゆえ、事務局の方々にご助力をお願いし、また、会員の皆さま方へ絶大な指導とご協力を頼りにして、務めて参りたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

高石市ボランティア連絡会 大杉 貞子



前会長のごあいさつ

平成8年に開催された第5回全国ボランティアフェスティバルを契機に連絡会が結成されることになり、思いがけない会長という大役がふりかかってきました。その間、全国ボラフェスやふれあびっく、大阪ボラフェスなど大きな事業が続いていますが、各市町村ボラ連の皆様のすばらしい連携で、いずれも大きな成果をあげることができました。とくにシルバーの皆さんの活躍は感動ものです。

また、府ボラ連誕生とともに、府社協や大阪府の福祉・人権・平和・町づくり・防災・環境など、数々の関係機関・団体とのつながりも生まれ、府民を代表する団体としての役割が求められるようになってきました。

おかげさまで多くの方々との出会いと学びのチャンスを与えていただきましたことを心より感謝申し上げますと共に、皆様方のますますのご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

高槻市ボランティアセンター 矢形 律子



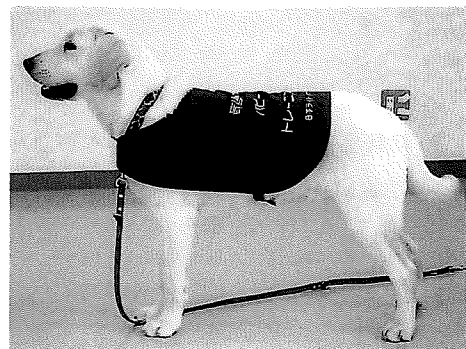
盲導犬を通じて広がる ボランティアネットワーク

150人の「ライトフレンズ」

視覚障害者の「目」となって活躍する盲導犬。外出時に付き添ったり、家の中で安全に過ごせるよう誘導したりと、目の不自由な人の生活を支える、大切なパートナーといわれています。

盲導犬は生後約2ヶ月から1歳頃まで里親家庭に預けられ、訓練犬になるまで育てられます。その後、訓練所で6〜8ヶ月間、厳しいトレーニングを経てユーザー（視覚障害者）のもとへ送られますが、その間、実にたくさんのボランティアが盲導犬の成長を見守っているのです。

視覚障害者の社会参加を支援している「日本ライトハウス」。大阪・千早赤阪村に「行動訓練所」を設け、盲導犬の育成や訓練などが行われており、ここでは「ライトフレンズ」と呼ばれる150人ものボランティアが活躍中。繁殖犬ボランティア、パピーウォーカー（里親ボランティア）、犬舎ボランティア、清掃ボランティア、縫製ボランティア、引退犬ボランティアなど、盲導犬がデビューし、引退するまでの数多くの仕事を、それぞれのボランティアが役割分担し、職員をサポートしています。「職員だけではできないことがたくさんあり、多くのボランティアさんの存在があつてはじめて、この訓練所は成り立っているんです。仔犬を預かり育てるパピーウォーカーさんは、盲導犬にとって一番大切な人間との信頼関係を築く役割。そして引退した盲導犬を引き取って育ててくれる引退犬ボランティアなど、どの活動も大切で、いわば、ユーザーさんとの仲介役をさせていただいています」と、同訓練所所長の中村透さん。



パピーコート

また、グルーミングや犬舎の清掃なども犬の健康にとっては欠かせない仕事。そのほか、公共の場所では抜け毛が落ちないように工夫された盲導犬用のコートや、トレーニング中の犬につけるパピーコートなどは、縫製ボランティアの手作りによるものです。

「犬と人間は体型が違うので、型紙づくりもひと苦労。外出先で排泄させることもありますから、目の不自由な方でも簡単に脱ぎ着させられるよう、デザインには細かい所まで気を配っています」とは、ある縫製ボランティアさんの談。

「私も含めて、皆さんがボランティア活動を始めたきっかけは、犬好きが高じて」ということです。ここへ来たら犬の話ばかり。それが本当に楽しくて」と、ボランティアのまとめ役として活動するライトフレンズ事務局の大槻和子さんは話します。

同訓練所では、ボランティア同士



盲導犬コート

広報部会からのお願い

Vサインなどを企画するために、各市町村ボラ連の活動状況などを教えてください。部会では情報収集の担当者をブロックごとに決めておりますので、直接または大阪府ボランティアセンター経由でお知らせください。

北摂ブロック 渡瀬芳子（池田市）
河北ブロック 網谷朝代（門真市）
河南ブロック 宮田信直（河内長野市）
泉州ブロック 近藤裕子（泉大津市）

やユーザーとのネットワークづくりも活発。

「パピーウォーカー（仔犬）がどのように活躍しているかは、とても気になるところ。たまには様子を見に行きたいと思うこともあります。でも、盲導犬はユーザーさんの指示のもと、生活のパートナーとして行動していますから、街でみかけることがあっても安易に声をかけることはできません。ですから盲導犬の活躍ぶりを知るために定期的に機関誌を発行し、情報交換。これはボランティア同士やユーザーさんとの大切なコミュニケーションツールなんです」と、同じくライトフレンズ事務局の隆崎信子さんは語ってくれました。

さらに、ボランティアとユーザーが定期的に交流会をするなど、ふれあいの場を積極的に設け、盲導犬を通じていきいきとした活動が広がっています。